

2 教育委員会事務局 各課概要(市長部局含)



2-1 教育総務課

教育総務課では、本市の教育方針や計画を決定する教育委員会会議の円滑な運営を行うとともに、市内小中学校の学習用端末をはじめとする ICT 機器の整備、児童生徒が安全で安心して学べる学校施設の環境整備を行っています。また、高校生や大学生等を対象として、奨学資金による貸付制度や海外留学者を対象とした給付制度などを設け、就学者への支援を実施しています。

さらには、教育委員会や学校の事務効率化や質の向上を目指し、教育 DX 化の実現に向けた検討を進めています。

〈主な実施事業〉

(1) 教育委員会定例会の運営

教育委員会定例会を毎月実施しています。会議は8名まで傍聴することができます。戸田市教育委員会では、重要案件に係る審議および決定を行うほか、教育委員からの提案に基づいた議題について議論し、教育委員会の活性化を図っています。

教育委員提案の議題一覧(令和6年度)	
4月	・教職員用端末の一元化について(ゼロトラストについて) ・教員研修の高度化について
5月	・指導の重点・主な施策について
6月	・特別でない特別支援教育について～通常学級との交流など～ ・キャリア教育について～子供達に夢や希望を持たせるための取組～
7月	・ICT 支援員の戸田市における実態と効果的活用について ・デジタル教科書の実態と課題、有効性について
8月	・学校施設の増改築工事について ・近視の子の推移、学校での対策について ・戸田市の子供の体力の現状について
9月	・IRTを活用した子供の学力の伸び率について ・防災教育について
10月	・産育休の現状について ・スクールロイヤーの活用方法等について
11月	・公民館の今後のあり方について ・学校施設以外での子供のサポート、居場所について
12月	・学校間の人的連携の現状と展望について ・自然学習について(学校と彩湖自然学習センターの連携について)
1月	・地域とともにある学校の役割について(コミュニティ・スクール) ・中学校の授業について
2月	・指導主事の役割について ・「e スポーツ」に係る現状と今後の展望について
3月	・学校施設の樹木管理等について ・ジェンダーフリー教育について

(2) ICT 環境の整備

市内小中学校では、様々な教育 ICT 機器が整備されています。GIGA スクール構想に基づく児童生徒への一人一台端末の整備のほか、各教室には、電子黒板機能付きプロジェクター及びホワイトボードが設置されており、ICT をフル活用した令和の日本型教育が推進される環境を整備しています。

また、セキュリティの観点から業務の内容によって使い分けていた教職員の端末は、ゼロトラ

ストの考え方にに基づいたより高いセキュリティを施したことで端末の一元化を実現し、授業や生徒指導におけるデータの効率的活用や教職員の働き方改革の推進に貢献しています。

(3) 学校施設の維持管理業務

学校施設の維持管理業務では、安全で安心な場であり続けられるよう維持管理業務を実施しています。次に記載する強みとなる環境整備に加え、エレベーターや消防、給排水といった設備の保守点検、樹木剪定や窓ガラス清掃業務などを行っています。

■ 冷暖房機の設置

市内小中学校では、昨今の夏の猛暑時にも快適に授業を行えるよう、各教室への冷暖房機の設置に加え、屋内運動場にも整備をすることで、猛暑においても体育授業等が実施できる環境を整えています。

■ 防犯対策の強化

不審者侵入などをはじめとする防犯対策を強化するため、市内小中学校には警備員の配置、防犯カメラの設置、さすまたやネットランチャーなどの防犯備品の配備など、様々な取組みを行っています。

(4) 学校施設の整備事業

市内小中学校の校舎や屋内運動場は昭和40年～50年代の建物が多くあります。施設の長寿命化や学校環境の向上を目指し、外壁や屋上など外周部、空調機や衛生設備などの改修工事を計画的に実施しています。また、学校施設の老朽化や児童生徒数の増加により生じる教室不足により、建て替え工事や増築工事を実施しています。

令和7年度は教室不足の解消と新たな給食調理場の設置に向けて、戸田南小学校の教室棟の増築工事に着手します。美笹中学校は令和9年度の工事着手に向けて、昨年度に策定した校舎の建替基本計画を具体化するため、基本設計業務を実施します。

また、老朽化した空調設備の更新や、トイレの洋式化やバリアフリー化など、様々な改修を計画的に進め、学校施設の安全性や快適性の向上を図っていきます。

(5) 高等教育への経済的支援

経済的な理由により、修学困難な生徒や家庭に対し、奨学資金や入学準備金の貸付および未来へはばたく人財育成資金や海外留学奨学資金の給付を行い、だれもが等しく高等教育を受けることができるよう経済的な支援をしています。

■ 奨学資金貸付制度(返済必要)

修学困難な生徒・学生本人に対して、選考の上、奨学資金を貸し付けしています。申請は毎年3月中旬に受け付けています。

■ 入学準備金制度(返済必要)

高等学校、専修学校及び大学に入学を希望する生徒・学生の保護者に対して、選考の上、入学準備金を貸し付けしています。申請は毎年10月から2月まで受け付けています。

■ 未来へはばたく人財育成資金制度(返済不要)

戸田市名誉市民である故 中村隆俊様(戸田中央メディカルケアグループ名誉会長)からの寄附金をもとに、進学の見込みや能力等を有しながらも経済的な理由によって進学又は

修学が困難な戸田市民の世帯の子等に、未来へはばたく人財育成資金(国公立高等学校奨学給付金・海外体験給付金)を給付しています。

- ・ 国公立高等学校奨学給付金

国公立高等学校等で学ぶ生徒の教科書代や学用品、学校外活動にかかる費用の一部を給付します。

- ・ 海外体験給付金

戸田市国際交流協会が実施する青少年海外派遣事業(中学生海外体験派遣事業・青少年代表団海外交流派遣事業)に費用負担なく参加できるよう、自己負担分の全額を給付します。

■ 海外留学奨学制度(返済不要)

戸田市民の世帯の子等で海外の大学・短期大学・大学院に留学し正規の教育課程を1年以上以上学修する者に奨学資金及び渡航費用を給与しています。当制度は寄付者である故金子正夫様らの御意向を受けて、留学を通して豊かな心や幅広い視野を持った戸田市の将来の発展に資する有用な人材を育成することを目的としています。

Topic1: 教育PR広報誌の作成

戸田市の学校教育の魅力・教育委員会の取り組み・支援制度等を発信するための広報誌を制作しています。この広報誌は、これから就学する子を持つ市民に対して配布するほか、市ホームページに掲載する予定です。

Topic2: 学習用端末の更新

GIGA スクール構想に基づき令和2年度に整備した7,680台の学習用端末については、導入してから5年が経過し、保守限界を迎えることから更新を行います。

これまで、学習用端末については、故障した際の修理に時間を要するため、一定に期間、児童生徒に端末が使用できない状況があり課題となっていました。そのため、更新にあたっては、児童生徒の学びを止めないよう、新たに約1000台の増となる8,760台を導入し、予備機の充実を図っていきます。

Topic3: 学校施設のバリアフリー化とトイレ洋式化

小中学校は児童生徒が一日の大半を過ごす生活の場であり、全ての児童生徒が障害等の有無に関わらず、誰もが支障なく学校生活を送れることが求められています。一方、市内小中学校においては、昭和40～50年代に建てた施設が多く、バリアフリー化されていない状況があります。このことから、令和6年度から令和7年度にかけてバリアフリートイレやスロープ設置等を行うことで、全ての小中学校がバリアフリー化します。

また、市内小中学校のトイレは、令和5年度末時点で約3割が和式トイレであり、一部中学校においては、約6割となる学校がありました。生活様式の変化への対応や衛生面の向上など生徒児童の利用しやすさに配慮できるよう、バリアフリー化と同様に令和7年度までに各学校の全ての和式トイレを対象として、洋式化へ改修する工事を行います。

2-2 学務課

学務課は、教育に関する施策の実現のため、教職員の人事に関することや、学齢簿の管理、児童生徒及び教職員の健康管理など、主に人的な教育資源の基礎部分に関する業務を行っています。

〈主な実施事業〉

R7.5.1現在

- (1) 県費負担教職員等の人事及び服務に関すること
教職員や、学校事務職員等の人事を行います。

教職員数(県費)	小学校	中学校
男 (人)	160	131
女 (人)	293	109
合 計 (人)	453	240

- (2) 学齢簿の編製及び保管に関すること

法律に基づき、義務教育年齢の児童生徒の学齢簿を編成します。

令和7年度 小・中学校学年別児童生徒数

(令和7年5月1日現在)

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	合計
戸田第一小学校	134	129	117	136	141	132	16	805
戸田第二小学校	125	139	149	145	150	168	12	888
新 曾 小 学 校	120	118	106	119	128	105	15	711
美谷本小学校	53	36	54	53	49	56	15	316
笹 目 小 学 校	46	40	34	35	45	42	10	252
戸田東小学校	116	141	140	173	194	197	21	982
戸田南小学校	119	108	120	128	146	118	25	764
喜 沢 小 学 校	72	69	75	72	60	68	12	428
笹目東小学校	96	100	99	108	89	94	21	607
新曾北小学校	107	98	113	111	105	103	15	652
美女木小学校	85	75	91	132	82	110	16	591
芦 原 小 学 校	98	100	102	128	104	130	6	668
合 計	1,171	1,153	1,200	1,340	1,293	1,323	184	7,664
戸 田 中 学 校	214	204	214				17	649
戸田東中学校	237	164	193				23	617
美 笹 中 学 校	93	79	95				10	277
喜 沢 中 学 校	148	157	175				10	490
新 曾 中 学 校	320	296	364				16	996
笹 目 中 学 校	214	214	215				24	667
合 計	1,226	1,114	1,256				100	3,696

- (3) 児童生徒の就学及び転出入に関すること

転入、転出等により、転校する場合の手續を担当します。

- (4) 学校教育関係の調査及び統計に関すること

国や県が実施する、学校基本調査等の調査に協力します。その結果に基づき、学級の数や、教職員の人数を決定します。

令和7年度 小・中学校学年別学級数

(令和7年5月1日現在)

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特学	合計
戸田第一小学校	4	4	4	4	5	4	3	28
戸田第二小学校	4	4	5	5	5	5	2	30
新 曾 小 学 校	4	4	4	4	4	3	3	26
美谷本小学校	2	2	2	2	2	2	3	15
笹 目 小 学 校	2	2	1	1	2	2	2	12
戸田東小学校	4	5	4	5	6	6	4	34
戸田南小学校	4	4	4	4	5	4	4	29
喜 沢 小 学 校	3	2	3	3	2	2	2	17
笹目東小学校	3	3	3	4	3	3	4	23
新曾北小学校	4	3	4	4	3	3	3	24
美女木小学校	3	3	3	4	3	4	3	23
芦 原 小 学 校	3	3	3	4	3	4	2	22
合 計	40	39	40	44	43	42	35	283
戸 田 中 学 校	6	6	6				3	21
戸田東中学校	6	5	5				4	20
美 笹 中 学 校	3	2	3				2	10
喜 沢 中 学 校	4	4	5				2	15
新 曾 中 学 校	8	8	10				3	29
笹 目 中 学 校	6	6	6				4	22
合 計	33	31	35				18	117

(5) 就学援助、特別支援教育就学奨励費に関すること

経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者等に就学援助費を支給します。また、戸田市立小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者等に、法律に基づく特別支援教育就学奨励費を支給します。

(6) 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師等に関すること

健康診断等を行う、学校医、学校歯科医及び学校薬剤師を任命します。

(7) 通学路及び児童生徒の交通安全に関すること

通学路に適宜、交通指導員を配置し、登下校の安全を確保します。

(8) 独立行政法人日本スポーツ振興センター法(平成14年法律第162号)に規定する災害共済給付等に関すること

学校の管理下において発生した、けが等の災害について、同制度に加入している児童生徒を対象に、必要な給付を行います。

(9) 学校運営協議会に関すること

教育委員会及び校長の権限と責任のもと、地域住民、保護者その他の関係者が、学校運営に参画し、学校と地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組んでいます。

Topic1:学校における働き方改革の推進

令和2年4月に「戸田市 学校における働き方改革基本方針」を策定し、令和4年8月に改定を行いました。学校教育の質の維持向上を図るためには、教師が毎日健康で子どもたちの前に立ち、授業やその準備をはじめとした専門性に基づく教育活動に全力で専念する環境をつくる必要があります。そのため、今後も学校における働き方改革を進めていきます。

Topic2:文部科学大臣表彰を受賞

戸田南小学校では、学校運営協議会をハブに家庭・地域が後押しをする学校における働き方改革について、令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

2-3 教育政策室

教育政策室は、市内小・中学校18校において、一人一人の児童生徒が自身のよさや可能性を認識し、その伸長を図るとともに、「生きる力」を育む適切な教育活動が推進されるよう、教育に関する政策の企画・立案、調査研究の他、教員研修や教科等教育への指導などを行っています。

〈主な実施事業〉

一産官学との連携による戸田市 SEEP プロジェクトの推進一

(1) S:Subject(教科の本質を捉えた授業改善をはじめ、すべての取組を学びに結びつける)

S ubject

教科の本質を捉えた授業改善をはじめ、すべての取組を学びに結びつける

主体的・対話的で深い学び推進のための「戸田市授業改善モデル」
本市独自のルーブリックを核として多角的な授業改善に取り組む

「子供たちに身に付けさせたい力」は何か

- 各学校における具体的な教育目標の設定と教師の意識改革
 - 具体的な教育目標を設定した「授業力向上プラン」の作成
 - 本市で作成した「資質・能力ルーブリック」の活用

子供たちが何を学ぶか

- 基礎的な知・徳・体の効果的・効率的な習得
- 産官学との連携による新たな学びの実践

子供たちがどう学ぶか

- アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の推進
 - 本市作成「戸田市版アクティブ・ラーニング指導者用ルーブリック」の活用促進（学校訪問時の指導、研究協議会での活用等）
 - 県及び全国学力・学習状況調査等の分析結果のフィードバック
 - 学校訪問改革、校内研修の活性化
 - 県学力調査や教員調査によるルーブリックの検証、改善
 - 教員研修の高度化（お茶の水女子大学、埼玉大学、国士館大学との連携）
 - ユニバーサルデザインに基づく学級経営と授業実践
 - 家庭学習及び放課後補習学習支援（民間の塾等への委託）
 - 共栄大学：教員研修のサポート等
- 本市作成「学級経営リフレクション」の活用促進
- 文部科学省「教育研究開発事業」に係る新たな教育課程の研究【新】

■指導の重点・主な施策

各種学力調査の結果分析や学校訪問等を通して明らかとなった課題の解決や日々の授業改善に向け、各学校で行う教育活動の指針となっています。



(2) E:EBPM(「授業」「生徒指導」「学校・学級経営」を科学する)

E BPM

「授業」「生徒指導」「学校・学級経営」を科学する
⇒ EIPP (Evidence Informed Policy and Practice)

「戸田市教育政策シンクタンク」の設置

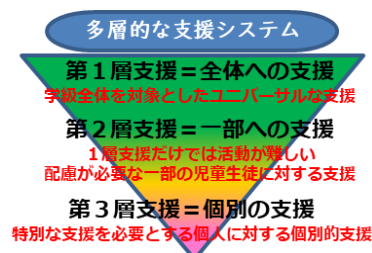
エビデンスベースでの政策づくりを自立的に推進

- 教育総合データベースの運用【拡】
- 授業がわかる調査、教員質問紙調査等の分析
- 多様なスキルを持った教育行政プロや教育DX人材の採用
- 学校現場におけるデータ活用推進
- ★外部アドバイザーボード：大学教授や弁護士等の有識者で構成される諮問会議を開催

- ★国立教育政策研究所：教育施策の効果検証
- ★東京大学：SESと学力調査等の分析
- ★国立情報学研究所、東京理科大学、(一社)教育のための科学研究所：リーディングスキルの視点からの授業改善
- ★(株) LITALICO：ペアレントトレーニングの導入、個別のまなびプランの導入、スクールワイドPBSの効果検証
- ★(一社)UNIVA：RTIモデルによる効果検証
- ★IGS (株)：AiGROWによる教育効果の可視化
- ★ハイラブル (株)：話合いの定量的分析と可視化
- ★Ddrive (株)：データベースのシステム構築とその分析

■「多層的な支援システム」の導入

多層的な支援システムでは、全体に効果的な指導や支援(=第1層支援)を行いながら、データをもとに児童生徒の反応をつかみ、効果が見られるよう支援方法や指導方法を変えたり、追加したりします。



■教育総合データベースの活用

本市では児童生徒の支援・指導の充実に繋げるため、児童生徒に係る様々なデータをワンストップで確認できるように教育総合データベースを整備しています。あわせて、当該データを抜粋し、グラフ等でビジュアル化した「ダッシュボード」を構築し、様々なデータを効率的に確認できるようにしました。

(3) E:EdTech(テクノロジーの活用による新たな学びを創造する)

E dTech

テクノロジー活用による新たな学びの創造

戸田市版SAMRモデルに基づくICTの文系的活用と学びの改革

- 学校と家庭等をシームレスにつなぐ学び等、新たな学びの推進
- 全小・中学校にICT支援員を配置
- 全小・中学校でプロジェクト型電子黒板を活用
- 全小・中学校が「学習者用デジタル教科書実証事業」に参加
- ★ Google：市内全児童生徒及び教職員にアカウントを付与、「Google Gemini」の活用研修の実施
- ★ 富士電機ITソリューション（株）：ICT総合サポートにより、コールセンター対応及び巡回支援員を全小・中学校へ派遣
- ★ （株）ベネッセ：「ミライシード」の活用及びICT教育支援員を全小・中学校に派遣、CBTシステム「テストパーク」の活用 **【拡充】**
- ★ （株）LoiLo：「ロイロノート」の活用及びオンライン研修の実施
- ★ （株）ジャストシステム：「スマイルネクストドリル」を活用した学校・家庭のシームレスな学びの研究
- ★ （株）EdLog：採点支援システムの活用
- ★ （株）COMPASS：「Qubena」の活用

■ 戸田市版 SAMR モデル

戸田市においては、戸田市版 SAMR モデルをもとに学びの質の向上を目指し、M 段階(Modification[変革])の学びの推進を目指しています



■ ICT 活用と DC(デジタルシチズンシップ)の一体的な充実

各学校で作成した DC の全体計画・年間指導計画をもとに主体的な学び、核となる授業、家庭との連携を柱に DC を育成しています。



核となる DC 授業の様子

(4) P:PBL(実生活・実社会のリアルな課題を探究的に解決する学びを推進する)※1

P BL

実生活・実社会のリアルな課題を探究的に解決する学びの推進

- アイデア提案に留まらない「実行・検証」までを踏まえた実践型のPBLを推進

〈PBLのプロジェクト類型〉

- ・ 学級/学校/地域の課題解決
- ・ 子供主体のルールメイキング
- ・ 地域連携/企業連携/市役所連携
- ・ 防災/安全/SDGs
- ・ 商品開発 等

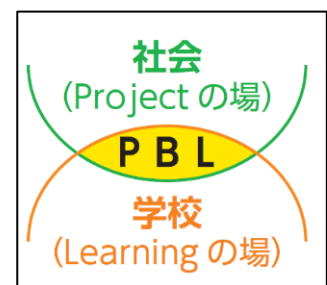
- 戸田市プレゼンテーション大会（戸田型PBL発表会）の開催
- ★ （株）リバネスキャピタル インテル（株）、フューチャーインスティテュート（株）：プレゼン大会の審査及び指導助言
- ★ （一社）アルバ・エデュ：プレゼンに係る研修
- PBLに係る地域及び企業等との連携、カリキュラム・マネジメントの推進
- ★ インテル（株）、（株）キャリアリンク：Skills for innovation 研修会の実施

STEAM教育の基盤づくり

- ハイスペックデジタル工作機械（レーザー加工機）を全中学校に導入 **【新】**
- STEAM Labの設置
- ★ ダイワボウ情報システム（株）中村学園大学、インテル（株）、アドビ（株）、リコージャパン（株）、（株）アパロテクノロジー：STEAM教育の共同研究及び教員研修

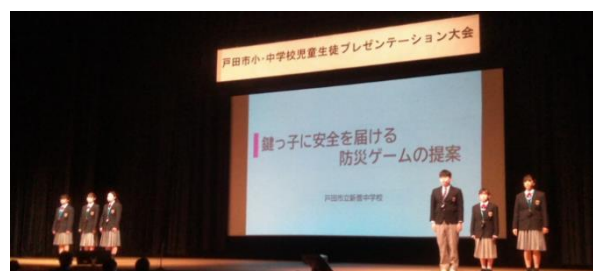
■ 戸田型 PBL

具体的な誰かの要望や自身の願望に基づき、何をしていくか(課題)を決め、その目標の達成や理想の実現(解決を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び(学習)と定義しています。



■ 戸田市プレゼンテーション大会の開催

市内全小中学校 18 校が日頃の学習をもとに戸田型 PBL 発表会を行っています。



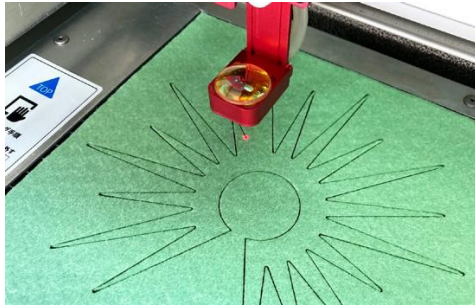
※

1:PBL:Project-Based-Learnig

Topic:STEAM 教育の基盤づくり

子供たちの知的好奇心を今まで以上に高めるため、市内全中学校へハイスパックデジタル工作機械(レーザー彫刻機)を導入し、創造性あふれる学びを実現します。

今年度、市内全中学校(6校)に3台ずつ設置する予定です。



このハイスパックデジタル工作機械は、布などにオリジナルの印字ができます。また、木やアクリル板の切断や彫刻などの加工もできます。

今後は美術科や技術・家庭科で作る作品の幅が広がり、総合的な学習の時間等で新たなテクノロジーを活用したものづくりについても意識が高まることを期待しています。

2-4 学校給食課

学校給食課は成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、食に関する指導を効果的に進めるための教材として活用できるよう、毎日安全・安心でおいしい学校給食の提供を行っています。

〈主な実施事業〉

(1) 学校給食費

学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費並びに学校給食の運営以外の経費(主に食材費)の計算、徴収、管理を行っています。

また、保護者の経済的な負担を軽減するため、平成 31 年度から第 3 子以降の学校給食費補助制度を開始し、令和 5 年度からは全額減免制度へ移行しました。

令和 7 年度からは第 3 子以降の減免制度に加え、中学生の無償化を実施しています。

学校給食費(平成 31 年 4 月 1 日改定)

区分	給食費(月額)	1食あたりの単価(円)
小学校	4,000 円	244 円
中学校	4,600 円	281 円

(2) 学校給食センター

戸田市の学校給食は、昭和 32 年 7 月から 2 校の小学校で開始されました。その後、昭和 45 年 9 月から小中学校のすべてにおいて、センター方式による完全給食が実施されました。

平成 17 年 4 月から、小学校において順次、単独校調理場方式の給食が開始され、学校給食センターからの配送校は、小学校 2 校、中学校 6 校(内 1 校は給食センター分室)となっています。平成 23 年 9 月に現在の学校給食センターが完成し、同年 10 月から給食調理が開始され、年間 180 回以上の給食を提供しています。

・学校給食実施状況(給食センター)(令和 7 年 4 月 1 日現在)

区分	学校数 (校)	学級数 (学級)	1日平均食数 (食)
小学校	2	46	1,271
中学校	6	117	3,935
計	8	163	5,206

※給食数は児童生徒数と職員数等も含む。



所在地:新曽南 4 丁目 3 番 45 号

TEL: 048-442-5065

竣工:平成 23 年 9 月

業務開始:平成 23 年 10 月

調理能力:1 日約 6,000 食

敷地面積 3,543.74 m²

建物 鉄骨造 2 階建

建築面積 1,871.33 m²

延床面積 2,501.66 m²

{ 1階 1,905.47 m²
 2階 584.19 m²
 機械室 12.00 m²

(3) 単独校調理場

平成 17 年 4 月から戸田第二小学校、芦原小学校の 2 校、平成 18 年 4 月から美谷本小学校、平成 19 年 4 月から戸田第一小学校、平成 20 年 4 月から美女木小学校、平成 21 年 4 月から戸田東小学校、平成 22 年 4 月から笹目東小学校、平成 23 年 4 月から新曽北小学校、平成 24 年 4 月から笹目小学校、令和 5 年 1 月から新曽小学校を加え、10 校の小学校で単独校調理場方式による年間 180 回以上の給食を提供しています。

・学校給食実施状況(単独校) (令和7年4月1日現在)

区分	学校数(校)	学級数(学級)	1日平均食数(食)
小学校	10	237	6,970

※給食数は児童生徒数と職員数等も含む。

(4) 学校給食の役割

栄養のバランスのとれた食事を一日に三回食べることは、健康な生活を送る上で基本となるものです。

食生活が充実し児童生徒の体位が向上する一方で、栄養の偏り、不規則な食生活や運動不足などによる肥満、貧血、疲れ、集中力の欠如などの問題が指摘されています。また、社会の変化に伴い家庭のあり方が変容し、家族のだんらんも少なくなり、一人で食べることや子供だけで食事をする習慣など食生活上の問題も生じています。

このような食環境の中で、成長期にある児童生徒に対し健康的な食生活に関する理解を深めていくことは、学校給食の重要な役割と考えます。

■ 給食指導と栄養教諭・栄養職員の参画

栄養教諭・栄養職員は、学校給食を通じ児童生徒の健康教育を進める上で極めて大きな役割を担っています。学校給食の献立作成等に携わる栄養教諭・栄養職員が専門的立場から給食指導に参画し、幅広い活動をすることにより、給食指導の一層の効果を上げることが期待されています。

■ 多様な教育効果

給食の時間は、みんなで一緒に「食べる」学校生活の中で楽しい時間の一つです。その中で栄養に関することや日本の行事食・郷土料理について、また農業や漁業、食料の生産・加工・流通についてなど学習内容の理解が一層深められ、自然の恵みや働く人々への感謝の心を育てることもできます。

■ 食物アレルギー対応

食物アレルギーを持つ児童生徒にも安全な食事を提供できるよう、各調理場及び学校が対応可能な範囲で特定の食品を除いた除去食の提供を実施しています。

Topic: 中学生の学校給食費無償化

物価高騰に伴う保護者の経済的な負担を軽減することを目的として、令和 7 年 4 月から市内中学校に在籍する生徒の学校給食費無償化を実施しています。

また、アレルギー、不登校等の理由により給食の提供を受けていない生徒や、市内在住で特別支援学校中学部に在籍する生徒の保護者に対し、学校給食費相当額の助成を実施します。